

平成 29 年 7 月 31 日

各 位

上場会社名 株式会社 郷 鉄 工 所
代表者名 代表取締役社長 林 直樹
(コード番号 6397)
問合せ先責任者 執行役員 若山 浩人
(T E L. 0584-22-1124)

事業の現状、今後の展開について

当社は、下記のとおり、事業の現状及び今後の展開等について、株式会社東京証券取引所に対し、同社有価証券上場規程第 601 条第 1 項第 4 号 a 本文に定める書面を提出いたしましたので、お知らせいたします。

本書面の提出により、平成 29 年 12 月末日までのいずれかの月において、月額平均時価総額および月末時価総額が 10 億円以上になった時は、同上場廃止基準に該当しないこととなります。

当社はこの度、時価総額基準に抵触いたしましたが、下記「2. 今後の展開について」に記載しました事業計画の推進により、業績の向上図り、市場の信頼を回復することによって、今後とも東京証券取引市場二部上場を維持するよう努めてまいります。

記

1. 事業の現状において

当社は、平成 28 年 3 月期において債務超過に陥っています。平成 29 年 3 月期の決算作業を現在行っていますが、平成 29 年 3 月期の決算において債務超過が解消されない場合は、上場廃止となります。

(1) 経営の基本方針

当社は、鉾山機械、運搬機械・ライニングタンク的设计・製作・修理・販売・設置工事及び橋梁・水門・鉄塔その他鋼構造物・水道施設・的设计施工・製作・修理・販売・設置工事を通じて継続的に社会に貢献する企業めざして事業を推進してまいりました。

(2) 当社事業の現状

わが国の経済は、雇用情勢の改善や、各種政策の効果等もあり、景気は緩やかに回復してまいりました。今後も、緩やかな回復基調が期待されますが、海外市場の不確実性や金融市場の変動に留意する必要があると思われまます。当業界におきましては公共投資、民間投資も低調に推移し、厳しい状況にありました。

当社におきましては、積極的な営業活動を展開しましたが受注高・売上高とも減少しました。

① 破砕粉碎機事業

特殊破砕機等の発注者都合の先送り等により受注高・売上高が減少しましたが、標準破砕機等に関しては、若干の減少状態となっております。

② 橋梁鉄構及び水処理装置事業

橋梁鉄構及び水処理装置事業部門におきましては、役所の入札による案件数の減少及び低価格競争により受注ができなかったこと等により受注高が減少しております。

さらに水処理装置事業部門におきましては、水処理部門の工期のずれ等で売上時期の先送りで売上高も減少しております。

③ 環境装置事業

環境装置部門は受注高・売上高とも減少しております。

採算性が悪化している部門ですので受注高の減少は収益を考えるとプラス要因ともわれます。

太陽光発電事業については、営業活動は行っておらず、太陽光発電事業から撤退をしています。太陽光発電事業は、第一次調査委員の調査対象であります。太陽光発電事業は、売上高には寄与しましたが収支は大幅な採算割れ案件が多々あり、収益に多大な影響を与えました。調査報告書の結果を受けて決算の訂正が生じる可能性が高いことがあります。

④ ライニング製品事業

ライニングタンク部門は市場の好不況が激しい業界で現状は不況の状況で受注高・売上高も減少採算性も悪化しております。

⑤ ガスエンジン事業

ガスエンジン事業は、昨年5月23日開示いたしました株主割り当て増資を実施した際、当初目論見の金額1160百万の調達を想定いたしましたが、予定を大きく下回った220百万の調達に終わりました。当初の目論見は、調達資金の使途に記載のとおり、株式会社ワイ・ジー・ケーとの業務提携費用、製造販売実施権許諾権契約、生産設備の整備、人材の確保・育成、営業及び販売の費用にあてる予定でした。調達額が下回ったことにより、業務提携費用に充当したものの新規事業推進にはいたりませんでした。また、ガスエンジンの性能に不備があり成果が出ていないのが実態です。

今後の事業展開については、平成29年4月3日付「業務提携の解除通知書の受領に関するお知らせ」でお知らせしたとおり、株式会社ワイ・ジー・ケーから当社の債務不履行による契約解除通知が届いていますが、当社としては、先方が

主張している債務不履行に対しては反論の意向です。事業の方向性が見極められた時点ですみやかに開示いたします。尚、ガスエンジン事業につきましては、平成29年7月14日付「第三者による追加調査に関するお知らせ」で公表しておりますとおり、取引自体の妥当性や業務処理の適正性に関する追加調査の対象になっていますことをお知らせします。

(3) 業績の推移及び概況

①業績の推移

(単位:百万円)

決算期	平成26年3月期 (非連結)	平成27年3月期 (連結)	平成28年3月期 (連結)
売上高	3,933	5,687	3,831
営業利益	△520	104	△699
経常利益	△551	72	△751
当期純利益	△699	57	△903
純資産額	253	323	△594
総資産額	5,360	7,279	5,084
営業活動によるキャッシュフロー	△289	△67	△139
投資活動によるキャッシュフロー	△26	△211	△17
財務活動によるキャッシュフロー	294	180	△362

過年度決算の決算修正の結果によっては、金額は変動します。影響額の概要については、平成29年6月23日に開示致しました第三者委員会の調査報告書を参照してください。

2. 今後の展開について

(1) 収益性の改善

採算の悪い部門の合理化及び廃止等により不採算部門を無くし採算性ある部門に特化して事業継続を図ってまいります。

社業の中心を破碎粉碎機及びそれらに関連する機械部門に特化し収益を確保してまいります。

過去3ヶ年の『破碎粉碎機及びそれらに関する機械部門』の売上高、利益は次の通りです。尚、過年度決算の決算修正の結果によっては、金額は変動します。

(単位;百万円)

	平成26年3月期	平成27年3月期	平成28年3月期
売上高			
破碎粉碎機	203	228	193
その他の機械	586	403	372
合計	789	631	565

利益			
破砕粉砕機	7 3	9 5	6 3
その他の機械	△ 0, 5	2 9	5 3
合計	7 2, 5	1 2 4	1 1 6

(橋梁・水処理部門も収益性を考慮すると縮小方向となります。)

各種機械の機械加工等も機械の老朽化に伴う加工機械本体更新等が困難なことを考慮すると外部協力業者の比率を多くしていきます。

ライニングタンク事業は市場の不況で採算性も悪い為、平成29年8月31日をもって廃止いたします。詳細については、平成29年7月24日付「一部事業の廃止に関するお知らせ」を参照してください。

支店・営業所等関係も破砕機及び関連機械中心の営業体制合わせて縮小・整理予定であります。

今後、更なる整理及び縮小等により各種コスト低減の方策を講じていき利益の確保に努める予定です。

3. 今後の見通し及び上場維持について

今後も厳しい経営環境が続くことが想定されますが、上記の取り組みにより黒字化を目指しております。当社は利益計上を更に上積みすべく努力継続することで、株主をはじめとしたステークホルダーの皆さまの信頼回復と財務体質の安定化、企業価値向上を目指してまいります。

これらにより、当社株式の月間平均時価総額及び月末時価総額について、東京証券取引所の定める基準を上回ることにより、今後も東京証券取引所第二部上場を維持出来るよう努めてまいります。

以 上